# 【10月のマーケットコメント】

基準日:2026年10月30日

10月初めは米長期金利が一時5.3%台と25年ぶりの高水準をつける中、株式は底堅く推移していましたが、中旬に発表された米CPIが予想を上回ったことを受けて、それまで上昇を牽引していたAI関連銘柄を中心に指数も大きく売られました。これに伴い、借入を中心に資金調達をしてきたネオクラウド銘柄の社債の価格が大きく下落し、また欧州でも、フランスの財政負担と債務返済懸念からドイツ国債とのスプレッドが歴史的な開きをみせ、信用不安が高まりました。

月末にかけては、大手テック企業の決算でAI投資の負担と回収時期への懸念の強まりや、米中間選挙の不透明感も重なり、月末にかけ株式市場は大きく下落しました。下旬に開催されたFOMCでは大方の予想通り、政策金利は3.75%～4.00%で据え置かれ、議長の会見では、インフレへの対応責任を強調する一方、先行きについてはデータ次第とし、今後のFOMC運営見直しも発表しました。また月末に開催された日銀金融政策決定会合では、政策金利は1.25%で据え置かれましたが、基調物価上昇率の2%到達の認定とETF売却の加速を打ち出しました。

為替については、ドル円が157円～158円の狭いレンジで推移する一方、ユーロが対ドルで下落したため、ユーロ円は176円台でやや円高で推移しています。

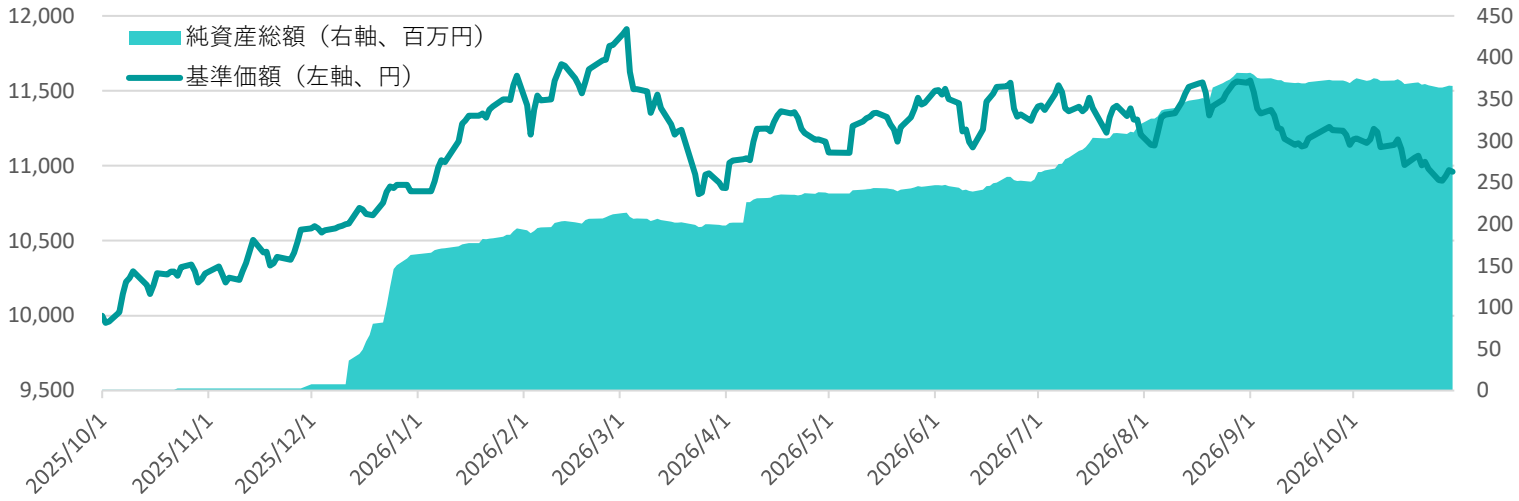
このような環境の中、パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンドは10月の調整局面の可能性を想定し、キャッシュ比率を引き上げておりました。長期金利の行方や信用不安による経済への影響を見極める必要はありますが、米経済や企業業績が引き続き好調で、AIへの需要は引き続き非常に強いことから、今回の調整局面は中期的な買い場というシナリオは変わらず、大きく下落した場面ではポジションを構築していく予定です。

（2026年11月2日）

パリミキアセットマネジメント
取締役チーフインベストメントオフィサー
宇野 隆一郎



## 基準価額と純資産総額の推移




## 期間別騰落率（%）

| 1ヵ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 年初来 | 1年 | 3年 | 5年 | 10年 | 設定来 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| −1.60% | −2.21% | −1.79% | 1.22% | 6.60% | − | − (複利年率) (−) | − (複利年率) (−) | 9.61% (複利年率) (8.87%) |

## ファンド概況

| | | | |
|---|---|---|---|
| 基準価額 | 10,961円 | 設定日 | 2025年10月1日 |
| 純資産総額 | 365百万円 | 信託期間 | 無期限 |
| ボラティリティ（1年） | 9.86% | 決算日 | 毎年2月25日（休業日の場合は翌営業日） |
| 投資信託財産の構成比率 | パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンド：99.80%　現金等：0.20%　（合計：100.00%） | | |

## パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンド　2025年9月1日設定

### 【10月の運用コメント】

基準価額は月間で▲1.51%となり、年初来で+2.14%となりました。

個別ファンドの騰落率については、上昇に寄与したのは、エネルギーETFが騰落率で+11.79%、欧州株式のコムジェスト・ヨーロッパが同+3.17%などでした。下落に影響したのは、日本株アクティブファンドのポリマー日本株式が騰落率で▲2.35%、新興国株式のコムジェスト・エマージングが同▲8.80%、ピクテゴールドが同▲3.53%、金鉱株式のコンウェーブ・ゴールドが同▲7.54%などでした。

10月の売買は、月末にETFの日経225やナスダック100などを購入した一方、東欧諸国株式のトリゴンを一部売却し、キャッシュ比率は17.13%（前月比▲4.17%）となりました。

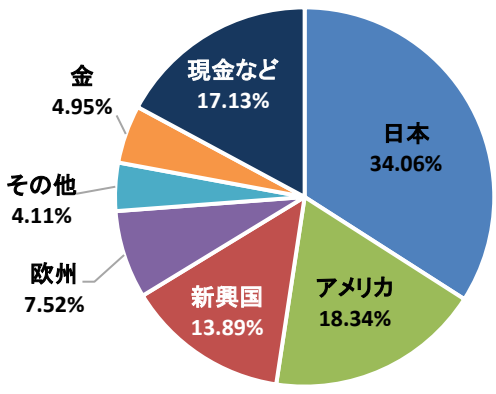
為替が、対ドルで約0.19円（0.12%）円安、対ユーロでは約2.08円（1.17%）円高へ推移しましたが、為替ヘッジによりポートフォリオのパフォーマンスには影響を与えなかったこととなります。現状の外貨資産リスク（42%）に対する為替ヘッジ率は、76%で、全体のポートフォリオの内、ヘッジ後の外貨リスクは10%です。

## パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンドの概況

| | | | |
|---|---|---|---|
| 純資産総額 | 15,620百万円 | 組入ファンド数 | 全22本 |

## 資産構成比率

### 国別




| 組入れファンド TOP10 | 組入れ比率 |
|---|---|
| モーラント・ライト | 10.67% |
| トリゴン | 9.44% |
| ポリマー日本株式 | 8.94% |
| Trinity Street | 6.63% |
| Invesco QQQ Trust Series 1 | 6.38% |
| ピクテ・ゴールド（為替ヘッジ付き） | 4.95% |
| NF日経225 | 3.90% |
| ニッポングロース | 3.67% |
| エネルギー・セレクト・セクター ETF | 3.63% |
| コムジェスト世界 | 2.51% |

## パリミキ・ファミリーオフィス・ファンドにかかわる費用

| | |
|---|---|
| 購入・換金時手数料 | 申込金額に3.3%（税抜3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率*を乗じて得た額とします。<br>購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価として販売会社にお支払いいただきます。また、再投資される収益分配金については、申込手数料はかかりません。<br>*当該手数料率は、販売会社にお問い合せください。 |
| 信託財産留保額 | ありません。 |
| その他の費用・手数料 | 信託財産で間接的に負担する費用・税金<br>信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息等、ファンドに組入れる有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料及び売買委託手数料に対する消費税等に相当する金額の費用は、信託財産から支払われます。 |
| 運用管理費用（信託報酬） | 年1.10%（税抜1.0%）<br>マザーファンドの組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担　年1.75±0.5%（税込）程度<br>※投資対象とする投資信託証券における料率を含めた実質的な信託報酬率（概算値）を算出したものです（2025年7月末現在）。各投資信託証券への投資比率が変動する可能性や投資信託証券の変更の可能性があることから、実質的な料率は変動します。したがって事前に固定の料率、上限額等を表示することはできません。 |

## ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、親投資信託を通じて株式などに投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はそれら組入株式等の値動きにより変動します。また、外貨建資産に投資する場合、投資対象国の通貨と日本円との間の為替変動により基準価額は変動します。従って、投資家の皆様の投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。当ファンドに生じた利益及び損失は、全て投資家の皆様に帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

## 委託会社情報

委託会社：株式会社パリミキアセットマネジメント　　金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第2727号
加入協会：一般社団法人 資産運用業協会

## 販売会社一覧

| 商号等 | 登録番号等 | | 日本証券業協会 | 一般社団法人金融先物取引業協会 | 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 | 一般社団法人資産運用業協会 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| Ｊトラストグローバル証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長（金商）第35号 | ○ | ○ | | ○ |
| 広田証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長（金商）第33号 | ○ | | | |
| 水戸証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第181号 | ○ | | | ○ |
| 日産証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長（金商）第131号 | ○ | ○ | ○ | |